

令和2年度

川越市河川生物調査

抜粋版

実施日 令和2年9月9日～10日

1. 調査目的

本調査は、河川生物を調べることにより、生物化学的酸素要求量(BOD)などの理化学的な調査だけでは把握しにくい、長期的な水辺環境の変化を総合的に把握することを目的とする。

2. 調査内容

2.1 調査地点

調査は、表 2-1 及び図 2-1 に示す 5 地点で行った。

表 2-1 調査地点一覧

地点番号	河川名	調査地点	場所
St. 1	入間川	初雁橋付近	的場地内
St. 2		菅間堰付近	菅間地内
St. 3	小畔川	田島橋付近	笠幡地内
St. 4		吉田橋付近	吉田地内
St. 5	南小畔川	大町橋付近	菅間地内

2.2 調査項目

調査対象項目は底生生物、付着藻類及び魚類とし、St. 1(入間川初雁橋付近)、St. 2(入間川菅間堰付近)及び St. 4(小畔川吉田橋付近)では全ての項目を調査した。St. 3(小畔川田島橋付近) 及び St. 5(南小畔川大町橋付近)では、底生生物の定性調査及び魚類の 2 項目を調査した。それぞれの地点における調査項目を表 2-2 に示す。

表 2-2 調査項目一覧

調査地点 項目		入間川		小畔川		南小畔川
		初雁橋付近	菅間堰付近	田島橋付近	吉田橋付近	大町橋付近
		St. 1	St. 2	St. 3	St. 4	St. 5
底生生物	定量調査	○	○		○	
	定性調査	○	○	○	○	○
付着藻類		○	○		○	
魚 類		○	○	○	○	○

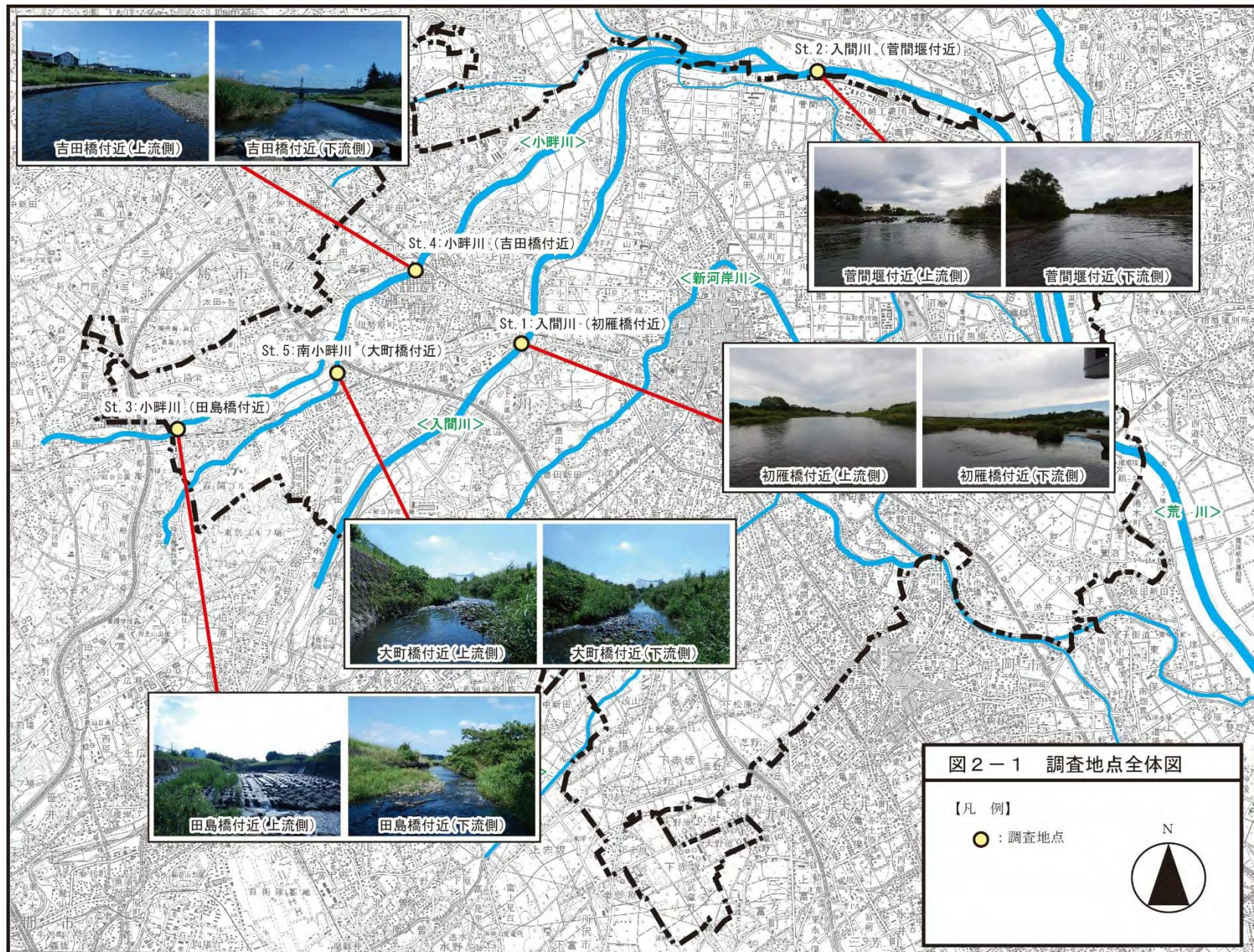


图 2-1 調査地点位置图

2.3 調査期日

調査は、表 2-3 に示す日程で実施した。

表 2-3 調査期日

調査期日	調査地点
令和2年9月9日(水)	St. 3、St. 4、St. 5
令和2年9月10日(木)	St. 1、St. 2

2.4 調査方法

① 底生生物調査

定量採集調査はサーバーネット、定性採集調査はタモ網等を用いて実施した。

a. 定量採集調査

定量採集調査は、サーバーネット（金属方形枠(25cm×25cm)に孔径 0.493mm のサラシ網を付けた器具）を用いて、河床に生息する生物を河床の砂礫ごと攪拌しながら採集し、バットにあけ砂礫等を取り除いた後、保存用のポリ瓶に移した。採集した検体試料は、ホルマリンで固定保存し試験室に持ち帰り分析に供した。なお、採集は 25cm×25cm 方形枠を 4 回(0.25m²)とした。

持ち帰った試料は、ふるいを用いて砂泥の微粒子を洗い流した後、実体顕微鏡(6.3～40 倍)及び生物顕微鏡(100～400 倍)により、各生物種の同定、種別個体数の計数を行った。

b. 定性採集調査

定量試料採集地点の上下流 50m 程度の範囲について、瀬・淵を問わずにタモ網等を使用して、中・大型種や注目に値する種の採捕を目的として任意に採集した。同時に採捕された魚類は魚類調査結果に統合した。

② 付着藻類調査

付着藻類は、瀬又は瀬に類似する場所の河床から、握り拳～人頭大の礫を採集し、採集部分にゴム製のコードラート(5cm×5cm)(図 2-2 参照)をあて、周囲に付着している余分な藻類をブラシでこすり落とした後、採集部分をブラシでバットの中にこすり落とし、保存用のポリ瓶に移した。この操作を 3 回繰り返したもの{(5cm×5cm)×3回=75cm²}を試料とした。採集した試料は、ホルマリンで固定保存し、試験室に持ち帰り分析を行った。持ち帰った試料は、一定量を大型のスライドガラス上に採取し、種の同定と細胞数の計数を行った。種の同定には、生物顕微鏡を用いた。

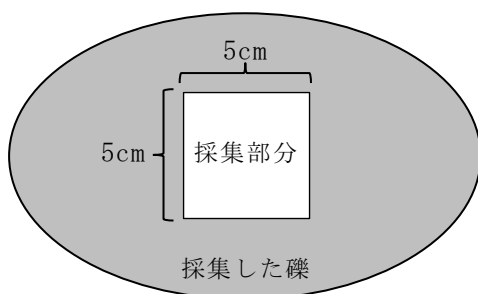


図 2-2 付着藻類採集の模式図

③ 魚類調査

魚類調査は目視のほか、投網、タモ網、網カゴなどを用いて魚類を採捕し、現地で種の同定及び採捕数、体長の記録をした後に放流した。

2.5 底生生物及び付着藻類による水質判定

各地点で採集された生物種の集計結果を元に、生物学的な水質判定を行った(判定方法の詳細は、資料編参照)。本調査では、従来から使用されている優占種法、Beck-Tsuda 法、Kollwitz 法及び汚濁指数法による水質判定結果から総合判定をおこなうと共に、「川の生きものを調べよう」並びに平均スコア法による水質判定も行った。底生生物及び付着藻類の定量採集調査を実施した地点については全ての水質判定をおこない、底生生物の定性採集調査のみを実施した地点については平均スコア法による水質判定を行った。

生物学的な水質判定に用いられる水質階級を表 2-4 に示す。なお、本文中は水質階級を記号で表す。

表 2-4 生物学的な水質階級

水質階級	汚濁の度合い
貧腐水性 (0s)	清冽
β 中腐水性 (β m)	やや汚い
α 中腐水性 (α m)	かなり汚い
強腐水性 (Ps)	極めて汚い

2.6 注目種の選定基準

現地調査により確認された底生生物、付着藻類及び魚類から、絶滅が危惧される種及び特定外来生物を注目種として抽出した。抽出は表 2-5～表 2-7 に示す選定基準により行った。

表 2-5 底生生物の注目種選定基準

略称	選定基準
環境省 RL	「環境省レッドリスト 2020」(環境省、令和 2 年)における掲載種(昆虫類、貝類、その他無脊椎動物)
埼玉県 RL	「埼玉県レッドデータブック 2018 動物編」(埼玉県、平成 30 年)における掲載種(地帯区分：荒川以西)
特定外来	「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成 16 年 6 月、法律第 78 号)による特定外来生物

表 2-6 付着藻類の注目種選定基準

略称	選定基準
環境省 RL	「環境省レッドリスト 2020」(環境省、令和 2 年)における掲載種(藻類)
埼玉県 RL	「埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」(埼玉県、平成 24 年)における掲載種
特定外来	「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成 16 年 6 月、法律第 78 号)による特定外来生物

表 2-7 魚類の注目種選定基準

略称	選定基準
環境省 RL	「環境省レッドリスト 2020」(環境省、令和 2 年)における掲載種(汽水・淡水魚類)
埼玉県 RL	「埼玉県レッドデータブック 2018 動物編」(埼玉県、平成 30 年)における掲載種
特定外来	「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成 16 年 6 月、法律第 78 号)による特定外来生物

3. 調査結果・考察

3.1 調査地点の概要

各調査地点及びその周辺の概要を以下に示す。

St.1 入間川(初雁橋付近)

水面幅は 20～30m程度、水深は 0.3～1.1m程度で水量は多い。東武東上線鉄橋の橋脚から 30mほど上流に落差工があり、その上流は水深 0.3～0.4m程度で、河床材料が砂泥の単調で緩やかな流れとなっている。落差工の下流付近は早瀬、橋脚部分は洗掘されて淵となっている。橋脚の下流側は大規模な平瀬と早瀬が連続しており、流れはやや複雑である。護岸は、上流右岸側にコンクリート護岸が施されているが、大部分は土羽護岸である。水際は、落差工上流右岸側がコンクリート護岸、橋脚付近の右岸側で護床工（テトラ型ブロック）が施されている。左岸側や橋脚下流右岸側では土質や砂礫が堆積し、草本類による植生帯が形成されている。河床材料は、粗い礫～砂が大部分を占めている。周辺は大規模な高水敷があり、左岸側の高水敷はグランドとして利用されている。



上流側



下流側

初雁橋付近

St.2 入間川(菅間堰付近)

水面幅は 20～40m程度、水深は 0.5～1.2m程度で、越辺川との合流後であるため、水量は多く、流れが速い。流路は堰からしばらくは水勢によって断続的に洗掘され、淵と早瀬・平瀬が連続しており、複雑な流れとなっている。堰の下流 300m程度の右岸側に小規模な低水敷が形成されている。堰直下から右岸沿いに護床工（テトラ型ブロック）が整備され、左岸は土質となっている。左岸の水際には草本と低木による植生帯が形成されている。河床材料は粗い礫～砂が大部分を占めている。周辺は、高水敷が大規模に発達している。調査範囲は、堰から下流 400mまでの区間とした。



上流側



下流側

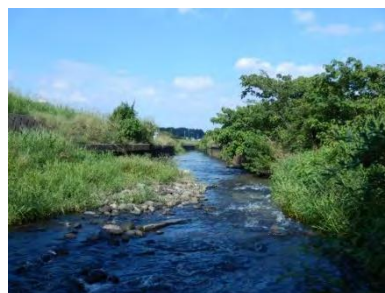
菅間堰付近

St.3 小畔川(田島橋付近)

水面幅は 10m程度、水深は 0.2~0.8m程度で、水量はやや少ない。落差工の上流側は緩やかな流れであり、下流側は流路が狭くなるため流れが速い。橋の上流側は、主にコンクリート護岸で部分的にフトン籠や石積みによる護岸が施されており、橋の下流側は鋼矢板護岸である。橋直下には、土砂が堆積して小規模な中州が形成されており、ヨシなどの草本類が生育している。下流側は、水面幅が 3m程度まで狭まり、小規模の早瀬と平瀬が連続している。河床材料は、落差工の上流側が砂泥~礫であり、下流側が 5~20cm 程度のやや大きめの礫や岩である。周辺は、主に農耕地(水田)が広がっている。



上流側



下流側

田島橋付近

St.4 小畔川(吉田橋付近)

水面幅は 10~15m程度、水深は 0.2~0.6m程度で、水量は多く、流れは速い。堤外地に高水敷があり、遊歩道が整備されている。低水護岸はコンクリートであるが、左岸側の水際は土質、砂礫であり、イネ科植物等が生育している。流路の大小により、早瀬と平瀬が連続している。下流側では、東武東上線鉄橋の橋脚で小規模な淵が形成されており、その下流側は早瀬となっている。橋脚より下流の中州にはヨシ群落が形成されている。河床材料は砂や 10cm程度の礫である。周辺は住宅地、農耕地が広がっている。



上流側



下流側

吉田橋付近

St.5 南小畔川(大町橋付近)

水面幅は6m程度、水深は0.3~0.6m程度で、水量は少なく、緩やかな流れである。橋付近は両岸コンクリート護岸であるが、その上流部、下流部で土羽になっている。水際は、関越自動車道より上流の左岸にトチなどの木本類、イネ科やユリ科等の草本類が生育しており、下流にはヨシやササが繁茂している。関越自動車道より下流に80cm程度の落差工があり、その下流側から水面幅が狭まり早瀬となっている。河床材料は、シルトや砂、礫である。



上流側



下流側

大町橋付近

3.2 出現種一覧

3.2.1 底生生物

各調査地点での底生生物調査結果の概要を表 3-1 に、出現種一覧を表 3-2 に、代表的な確認種の分布状況を図 3-1 に示す。今回の調査では 7 綱 15 目 34 科 70 種の底生生物が確認された。確認種は昆虫類が多く約 75% を占めた。また、確認種は国内の河川の中流域から下流域にかけて広く生息する種であり、汚濁に耐性を持つ種類が多かった。

今回の調査における注目種として、ヤマサナエ及びムナグロナガレトビケラが St. 1、キベリマメゲンゴロウが St. 2、マスダチビヒラタドロマシが St. 4 で確認された。

表 3-1 底生生物調査結果の概要

項目	St. 1 入間川 初雁橋 付近		St. 2 入間川 菅間堰 付近		St. 3 小畔川 田島橋 付近	St. 4 小畔川 吉田橋 付近		St. 5 南小畔川 大町橋 付近
	定量	定性	定量	定性	定性	定量	定性	定性
種数	21	10	33	5	16	36	12	17
	31		38			44		
個体数/0.25m ²	101	-	533	-	-	1,892	-	-
注目種	ヤマサナエ ムナグロナガレトビケラ		キベリマメゲンゴロウ		-	マスダチビヒラタドロマシ		-

表 3-2 底生生物調査結果一覧

調査期日：令和2年9月9日、10日

No.	綱名	目名	科名	種名		汚濁 耐性 指数	水質 階級	St.1 入間川 初雁橋		St.2 入間川 昔間堰下流		St.3 小碓川 田島橋		St.4 小碓川 吉田橋		St.5 南小碓川 大町橋	
				和名	学名			定量	定性	定量	定性	定量	定性	定量	定性	定量	定性
1	渦虫綱	三岐眼目	サンカクアタマウズムシ科	アメリカツノウズムシ	<i>Girardia dorotheophala</i>	-	-				14			122			○
2	腹足綱	新生腹足目	タニシ科	ヒメタニシ	<i>Sinotaia quadrata histrica</i>	B	3 αm		○								
3		汎有腹目	サカマキガイ科	サカマキガイ	<i>Physa acuta</i>	B	4 βs	1									
4	二枚貝綱	マルスタレガイ目	シジミ科	シジミ属の一種	<i>Corbicula</i> sp.	B	2 βm		○	14			14				○
5	ミミズ綱	イトミミズ目	ミズミミズ科	ユリミミズ属の一種	<i>Limnodrilus</i> sp.	B	4 βs			72			4				
6				ミズミミズ属の一種	<i>Nais</i> sp.	B	3 αm						4				
7				ニセミズミミズ属の一種	<i>Paranis</i> sp.	B	- -	14		4							
8				クロオビミズミミズ	<i>Ophidonais serpentina</i>	B	- -			2			8				
9				ヨゴレミズミミズ属の一種	<i>Slavina</i> sp.	B	- -			24							
10				テングミズミミズ属の一種	<i>Stylaria</i> sp.	B	2 βm			16							
11				ミズミミズ亜科の一種	<i>Naidinae</i> gen. sp.	B	- -			38							
12	ヒル綱	無物蛭目	イシビル科	シマイシビル	<i>Dina lineata</i>	B	3 αm					○		14			
13	軟甲綱	ワラジムシ目	ミズムシ科	ミズムシ	<i>Aesellus hilgardorffi</i>	B	3 αm							6			
14		エビ目	ヌマエビ科	カワリヌマエビ属の一種	<i>Neocaridina</i> sp.	-	- -		○				1			○	○
15			テナガエビ科	テナガエビ	<i>Macrobrachium nipponense</i>	B	2 βm			○						○	○
16				スズエビ	<i>Palaeon paucidens</i>	B	2 βm			○						○	○
17			アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>	B	4 βs		○							○	○
18	昆虫綱	カゲロウ目	カワカゲロウ科	キイロカワカゲロウ	<i>Potamanthus formosus</i>	B	2 βm			2							
19			ヒメシロカゲロウ科	ヒメシロカゲロウ属の一種	<i>Caenis</i> sp.	B	2 βm			42				2			
20			マダラカゲロウ科	アカマダラカゲロウ	<i>Telegonopsis punctisetae</i>	B	2 βm	1						2			
21				エラブタマダラカゲロウ	<i>Torleya japonica</i>	B	2 βm	1		2				4			
22			コカゲロウ科	ミツオミジカオフトバコカゲロウ	<i>Acentrella gnou</i>	A	1 Os	16		42				36			
23				ヨシノコカゲロウ	<i>Alainites yoshinensis</i>	A	1 Os			10							
24				フタバコカゲロウ	<i>Baetiella japonica</i>	A	1 Os	8									
25				サホコカゲロウ	<i>Baetis sahoensis</i>	B	3 αm									2	
26				フタモンコカゲロウ	<i>Baetis taiwanensis</i>	-	- -									2	
27				Fコカゲロウ	<i>Baetis</i> sp. F	A	1 Os	3		4						2	
28				Dコカゲロウ	<i>Nigrobaetis</i> sp. D	-	- -	9		44							
29				ウデマダリコカゲロウ	<i>Temibaetis flexiflora</i>	A	1 Os	15		22						202	
30			ヒラタカゲロウ科	シロタニガワカゲロウ	<i>Ecdyonurus yoshiidae</i>	B	2 βm	2		10						36	
31				ヒラタカゲロウ属	<i>Epeorus</i> sp.	A	1 Os	1									○
32		トンボ目	カワトンボ科	ハグロトンボ	<i>Atrocaopteryx atrata</i>	B	3 αm										○
33			ヤンマ科	ギンヤンマ	<i>Anax parthenope julius</i>	B	3 αm		○								○
34			サナエトンボ科	ヤマサナエ	<i>Asiagomphus melanocephalus</i>	B	2 βm										○
35				オナガサナエ	<i>Melligomphus viridicostus</i>	B	2 βm			1				7			○
36			エゾトンボ科	コヤマトンボ	<i>Macromia amphigena amphigena</i>	B	3 αm			○							○
37			トンボ科	シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>	B	3 αm		○								○
38		カワゲラ目	カワゲラ科	フタツメカワゲラ属	<i>Neoperla</i> sp.	A	1 Os			2							
39		カメムシ目	アメンボ科	アメンボ	<i>Aquarius paludum paludum</i>	B	3 αm		○								○
40				ヒメアメンボ	<i>Gerris latidominis</i>	B	3 αm		○								
41				シマアメンボ	<i>Metrocoris histrio</i>	B	2 βm										○
42			タイコウチ	ミスカマキリ	<i>Ranatra chinensis</i>	B	3 αm										○
43		トビケラ目	シマトビケラ科	コガタシマトビケラ	<i>Cheumatopsyche brevilineata</i>	B	2 βm										○
44				ウルマシマトビケラ	<i>Hydropsyche orientalis</i>	A	1 Os						○				
45				エチゴシマトビケラ	<i>Potamya chinensis</i>	A	1 Os			8							
46			クダトビケラ科	クダトビケラ属の一種	<i>Psychomyia</i> sp.	B	2 βm	7		8				40			○
47			ヒメトビケラ科	ヒメトビケラ属の一種	<i>Hydroptila</i> sp.	B	2 βm	2		22							188
48			ナガレトビケラ科	ムナゴロナガレトビケラ	<i>Rhyacophila nigrocephala</i>	A	1 Os	1									
49			コンギョウトビケラ科	コンギョウトビケラ	<i>Goera japonica</i>	A	1 Os										
50		ハエ目	ヒメガガンボ科	ウスバガガンボ属の一種	<i>Antocha</i> sp.	B	2 βm									2	
51			ガガンボ科	ガガンボ属の一種	<i>Tipula</i> sp.	B	2 βm										
52			ユスリカ科	カマガタユスリカ属の一種	<i>Cryptochironomus</i> sp.	B	3 αm	1		2							8
53				サトクロユスリカ属の一種	<i>Einfeldia</i> sp.	B	3 αm			2							
54				エリユスリカ属の一種	<i>Orthocladius</i> sp.	B	2 βm										4
55				ロシアキヒメユスリカ属の一種	<i>Paramerina</i> sp.	-	- -	1									
56				ハモンユスリカ属の一種	<i>Polypedilum</i> sp.	B	3 αm	8		30							56
57				ナガレツキユスリカ属の一種	<i>Rheericrotopus</i> sp.	-	- -										
58				ナガレユスリカ属の一種	<i>Rheotanytarsus</i> sp.	B	3 αm			8							884
59				ムナクボエリユスリカ属の一種	<i>Synorthocladius</i> sp.	-	- -										12
60				ヒゲユスリカ属の一種	<i>Tanytarsus</i> sp.	A	1 Os	1		50							8
61				スカユスリカ属の一種	<i>Thienemanniella</i> sp.	A	1 Os			10							12
62				モンユスリカ亜科の一種	<i>Tanypodinae</i> gen. sp.	-	- -	3		2							20
63				エリユスリカ亜科の一種	<i>Orthoclaadiinae</i> gen. spp.	-	- -			4							62
64				ユスリカ科の一種(蛹)	<i>Chironomidae</i> gen. spp. (pupa)	-	- -			12							54
65		コウチュウ目	ゲンゴロウ科	キベリマゲンゴロウ	<i>Platambus fimbriatus</i>	B	- -			○							
66			ヒメドロムシ科	ツヤドロムシ属の一種	<i>Zaitzevia</i> sp.	A	1 Os	3		8							40
67				ヒメツヤドロムシ属	<i>Zaitzeviaria</i> sp.	A	1 Os										2
68			ヒラタドロムシ科	クシヒゲマルヒラタドロムシ	<i>Eubranchia granicollis</i>	B	2 βm	3					○				○
69				ヒラタドロムシ	<i>Mataeocephus japonicus</i>	B	2 βm			2							○
70				マダチヒラタドロムシ	<i>Malacocephemonoides japonicus</i>	B	2 βm										6
	7綱	15目	34科	70種			個体数	101	-	533	-	-	1,892	-	-	-	-
							種類数	21	10	33	5	16	36	12	17		
							湿重量(g)	0.12	-	0.66	-	-	4.66	-	-	-	-

注) 1. 分類・配列は「河川水辺の国勢調査のための生物種リスト (令和2年度版)」に従った。
 2. 水質階級は、「森下郁子 (1985), 指標生物学 生物モニタリング考え方」に従った。
 3. 種名及び表中の網掛けは、「環境省レッドリスト2020」及び「埼玉県レッドデータブック2018 動物編」に記載されている種であることを示す。
 4. 定量採集面積は、0.25m×0.25m×4回 (0.25m) とした。
 5. 定性 (定性採集) は、さで網・たも網で地点周辺を調査した結果を示し、定量 (定量採集) は、サーバーネットにより一定面積内を調査した結果を示す。

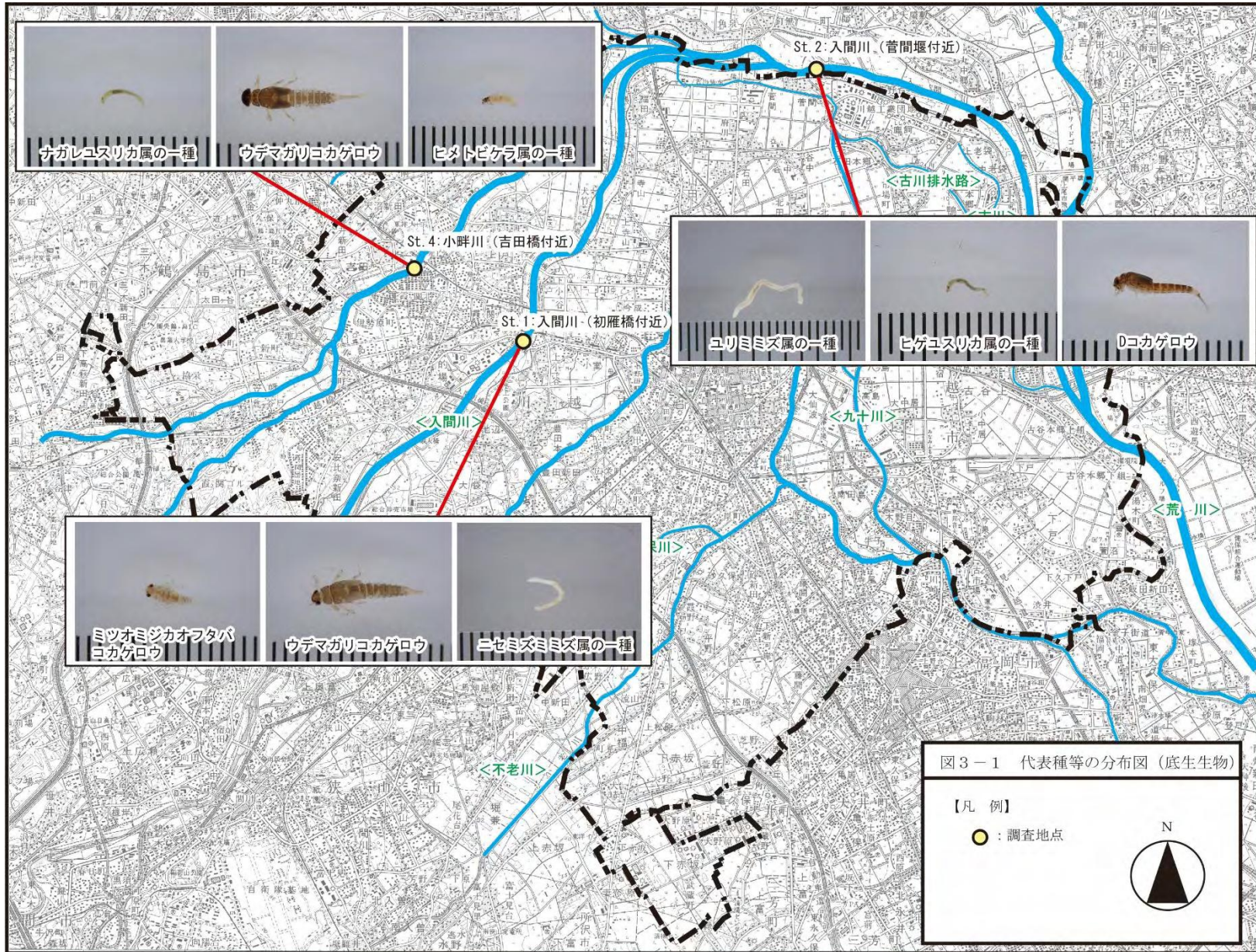


図 3-1 代表種等の分布図 (底生生物)

3.2.2 付着藻類

各調査地点での付着藻類調査結果の概要を表 3-3 に、出現種一覧を表 3-4 に、代表的な確認種の分布状況を図 3-2 に示す。

今回の調査では 4 綱 8 目 14 科 47 種の付着藻類が確認された。確認種は珪藻類が多く出現し、河川における一般的な傾向を示した。また、確認種は汚濁に耐性を持つ種が多かった。今回の調査において、注目種は確認されなかった。

表 3-3 付着藻類調査結果の概要

項目 \ 地点名	St.1 入間川 初雁橋 付近	St.2 入間川 菅間堰 付近	St.4 小畔川 吉田橋 付近
種数	10	32	35
細胞数/75cm ²	3,145	16,775	2,784,000
注目種	-	-	-

表 3-4 付着藻類調査結果一覧

調査期日：令和2年9月9日、10日

No.	綱名	目名	科名	種名		汚濁 指数	水質階級	St. 1 入間川 初雁橋	St. 2 入間川 菅間堰下流	St. 4 小群川 吉田橋				
				和名	学名									
1	藍藻綱	クロコックス目	クロコックス科	カキネツク	<i>Chroococcus</i> sp.	B	—			19,200				
2			エントフィサリス科	エントフィサリス	<i>Entophysalis</i> sp.	B	—	234	540	106,240				
3			ネンジュモ目	ヒクモ科	ヒクモ	<i>Homoeothrix janthina</i> *	A	0s~βm	2,648	8,235	1,152,000			
4				ユレモ科	ユレモ	<i>Phormidium</i> spp. *	B	—			1,280			
5			カマシフォン目	カマシフォン科	コンボウラン	<i>Chamaesiphon minutus</i>	A	0s~βm		243	76,800			
6	紅藻綱	アウロケチカム目	アウロケチカム科	アウロケチカム	<i>Audouinella</i> sp.	A	0s~βm	14						
7	珪藻綱	中心目	メソテラ科	メソテラ	<i>Melosira varians</i>	A	0s~βm		1,107	1,280				
8				羽状目	テイトマ科	シロシロ	<i>Pleurosira laevis</i>	A	0s		27			
9						シロシロ	<i>Ctenophora pulchella</i>	B	βm				1,280	
10						ウツク	<i>Ulnaria pseudogailonii</i>	B	—			81	2,560	
11						ウツク	<i>Ulnaria ulna</i> var. <i>ulna</i>	B	βm				1,280	
12						ナヒケラ科	ヒシケラ	<i>Frustulia vulgaris</i>	A	0s			27	
13							ゴムシ	<i>Gomphonema lagenula</i>	B	—				1,280
14							ゴムシ	<i>Gomphonema parvulum</i>	B	βm~Ps			27	14,080
15							ゴムシ	<i>Gomphonema pseudoaugur</i>	B	βm~Ps				2,560
16							フネ	<i>Navicula bacillum</i>	A	0s				27
17							フネ	<i>Navicula cari</i>	B	βm~αm				1,280
18							フネ	<i>Navicula confervacea</i>	B	βm			89	6,400
19				フネ	<i>Navicula cryptocephala</i>		B	βm~αm				1,280		
20				フネ	<i>Navicula cryptotenella</i>		B	βm			27	1,280		
21				フネ	<i>Navicula decussis</i>		A	0s~βm				1,280		
22				フネ	<i>Navicula gregaria</i>		B	βm~αm			243	1,280		
23				フネ	<i>Navicula rostellata</i>		A	0s~βm			54	5,120		
24				フネ	<i>Navicula saprophila</i>		B	βm~αm	36		351	113,920		
25				フネ	<i>Navicula seminulum</i>		B	αm~Ps			216	29,440		
26				フネ	<i>Navicula subminuscula</i>		B	αm~Ps			2,079	140,800		
27				フネ	<i>Navicula subrostellata</i>		A	0s~βm				81		
28				フネ	<i>Navicula symmetrica</i>		B	βm			135	1,280		
29				フネ	<i>Navicula veneta</i>		B	βm~αm			108	1,280		
30				フネ	<i>Navicula vuraensis</i>		A	0s~βm			216	1,280		
31				フネ	<i>Navicula</i> spp.		B	—		36		81		
32				ハネ	<i>Pinnularia brauniana</i>	B	βm~Ps				27			
33				エリウケ	<i>Sellaphora pupula</i>	B	βm~Ps	14		54				
34				アナンテス科	ウツク	<i>Achnanthydium exiguum</i>	B	βm				24,320		
35					ウツク	<i>Achnanthydium minutissimum</i>	B	βm		21				
36					コバン	<i>Cocconeis placentula</i> var.	A	0s~βm				19,200		
37					アトス	<i>Planorhynchium lanceolatum</i>	A	0s~βm			81	1,280		
38					ニツシア科	ニツシア	<i>Nitzschia amphibia</i>	B	βm~Ps			243	32,000	
39				ニツシア		<i>Nitzschia frustulum</i>	B	βm			189			
40				ニツシア		<i>Nitzschia inconspicua</i>	B	βm		92	675	779,520		
41				ニツシア		<i>Nitzschia palea</i>	B	βm~Ps	7		1,026	6,400		
42				ニツシア		<i>Nitzschia</i> sp.	B	—				16,640		
43				スリレラ科		スリレラ	<i>Surirella robusta</i>	B	βm			27		
44				緑藻綱	オホヒナマリ目	クラミトモナス科	クラミトモナス	<i>Chlamydomonas</i> sp.	B	—	216			
45					カエトフエ目	カエトフエ科	カエトフエ	<i>Cloniophora</i> sp.	B	—	43	162	39,680	
46							キヌミド	<i>Stigeoclonium</i> sp.	B	—			81	115,200
47					カエトフエ科 (基部細胞)	カエトフエ科 (基部細胞)	<i>Chaetophoraceae</i> gen. sp. (basal cell)	B	—				64,000	
						種類数		10	32	35				
						総細胞数 (cells/全試料)		3,145	16,775	2,784,000				
						沈降量 (ml/全試料)		0.3	0.6	1.7				

注) 1. (*) 印を付与した種については糸状体数を示す。

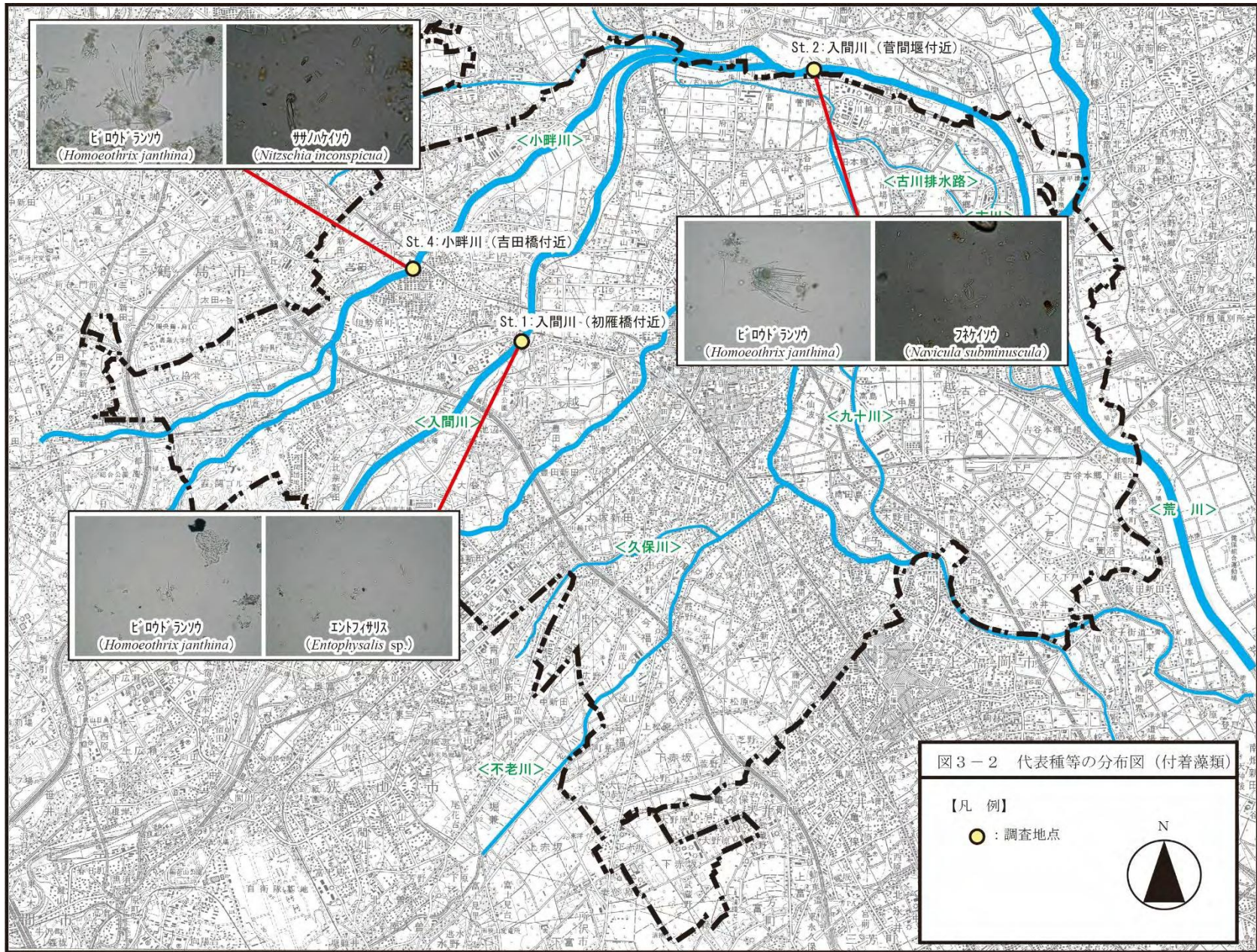


図 3-2 代表種等の分布図 (付着藻類)

3.2.3 魚類

各調査地点での魚類調査結果の概要を表 3-5 に、出現種一覧を表 3-6 に、代表的な確認種の分布状況を図 3-3 に示す。

今回の調査では 4 目 6 科 20 種の魚類が確認された。確認種は河川の中流から下流にかけて一般的に生息する種が多く、止水～緩流を好む種が多かった。注目種は絶滅危惧種であるドジョウが St. 3, 4、ギバチが St. 3、ミナミメダカが St. 2、特定外来生物であるブルーギルが St. 4、オオクチバスが St. 3, 5、コクチバスが St. 1～4 で確認された。

表 3-5 魚類調査結果の概要

項目 \ 地点名	St. 1 入間川 初雁橋 付近	St. 2 入間川 菅間堰 付近	St. 3 小畔川 田島橋 付近	St. 4 小畔川 吉田橋 付近	St. 5 南小畔川 大町橋 付近
種数	13	9	12	10	7
採捕個体数	140	57	59	253	38
注目種	コクチバス	ミナミメダカ コクチバス	ドジョウ ギバチ オオクチバス コクチバス	ドジョウ ブルーギル コクチバス	オオクチバス

表 3-6 魚類調査結果一覧

調査期日：令和2年9月9日、9月10日

No.	目名	科名	和名	学名	生活型	St.1 入間川 初雁橋 付近	St.2 入間川 菅間堰 付近	St.3 小畔川 田島橋 付近	St.4 小畔川 吉田橋 付近	St.5 南小畔川 大町橋 付近	
1	コイ目	コイ科	コイ (型不明)	<i>Cyprinus carpio</i>	淡	○		1	3		
2			ゲンゴロウブナ	<i>Carassius cuvieri</i>	淡	1					
3			ギンブナ	<i>Carassius sp.</i>	淡	5		1			
4			オイカワ	<i>Opsariichthys platypus</i>	淡	79	33	12	213	24	
5			カワムツ	<i>Candidia temminckii</i>	淡			20	2	2	
6			ヌマムツ	<i>Candidia sieboldii</i>	淡		1			5	
7			アブラハヤ	<i>Phoxinus lagowskii steindachneri</i>	淡	4					
8			モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>	淡	2				6	1
9			タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>	淡	7	1	8	2	3	
10			カマツカ	<i>Pseudogobio esocinus esocinus</i>	淡	20	14	2	5	2	
11			ニゴイ	<i>Hemibarbus barbus</i>	淡	5	1		15		
12			ドジョウ科	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	淡			1	2	
13				ヒガシシマドジョウ	<i>Cobitis sp. BIWAE type C</i>	淡	3	1	1		
14	ナマズ目	ナマズ科	ナマズ	<i>Silurus asotus</i>	淡	1		○			
15			ギバチ	<i>Tachysurus tokiensis</i>	淡			1			
16	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>	淡		1				
17	スズキ目	サンフィッシュ科	ブルーギル	<i>Lepomis macrochirus macrochirus</i>	淡				1		
18			オオクチバス	<i>Micropterus salmoides</i>	淡			2		1	
19			コクチバス	<i>Micropterus dolomieu dolomieu</i>	淡	12	3	10	4		
20		ハゼ科	トウヨシノボリ類	<i>Rhinogobius sp. OR unidentified</i>	回	1	2				
	4目	6科	20種		個体数	140	57	59	253	38	
					種類数	13	9	12	10	7	

- 注) 1. ○は目視による確認を示す。
 2. 種名・学名及び配列は、河川水辺の国勢調査の出現種リストに従った。また、生活型は「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」の表記に従った。
 3. 種名及び表中の網掛けは「環境省レッドリスト2020」及び「埼玉県レッドデータブック2018 動物編」に記載されている種であることを示す。
 4. 表中の赤字は「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」に記載されている種であることを示す。
 5. 生活型 回：両側回遊魚（海域と淡水域を往来する種） 淡：純淡水魚（一生を淡水で過ごす種）

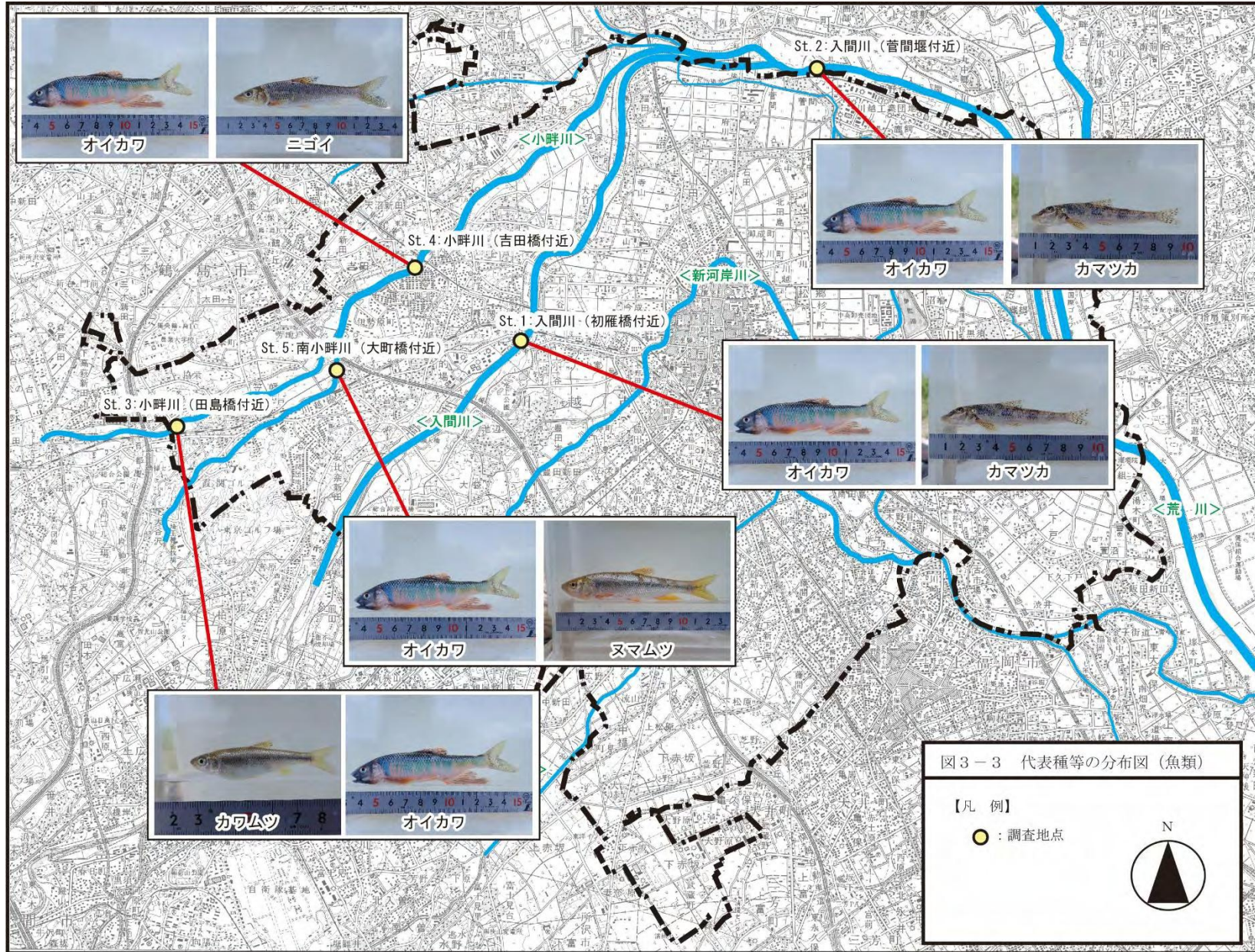


図 3-3 代表種等の分布図 (魚類)